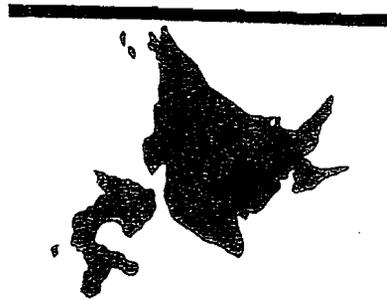
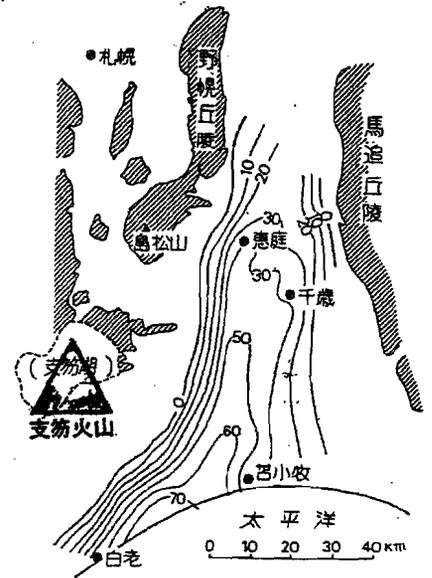


2. 千歳原野の生い立ち 自然要因

3万年前 支笏火山大噴火
 1万5千年前 恵庭岳大噴火
 8千年前 樽前山大噴火



第四紀更新世中期の北海道

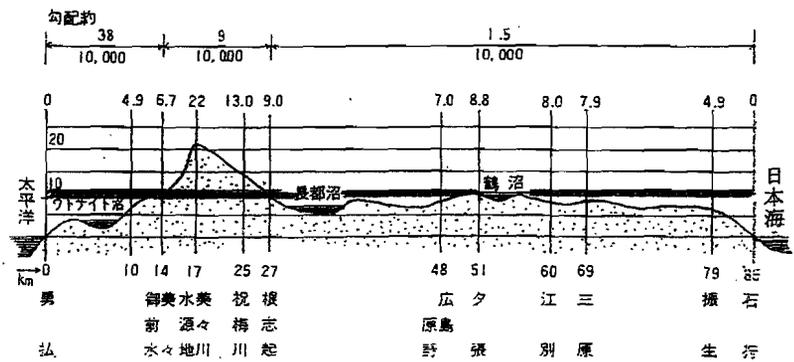
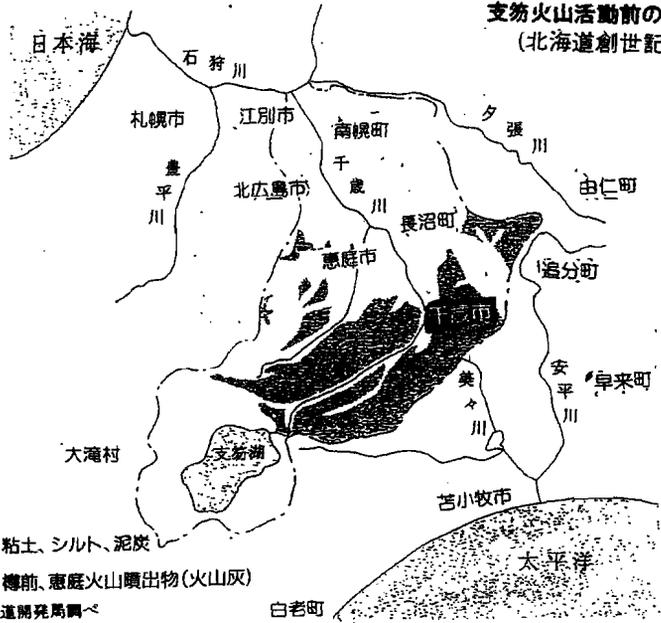


約6千年前の北海道

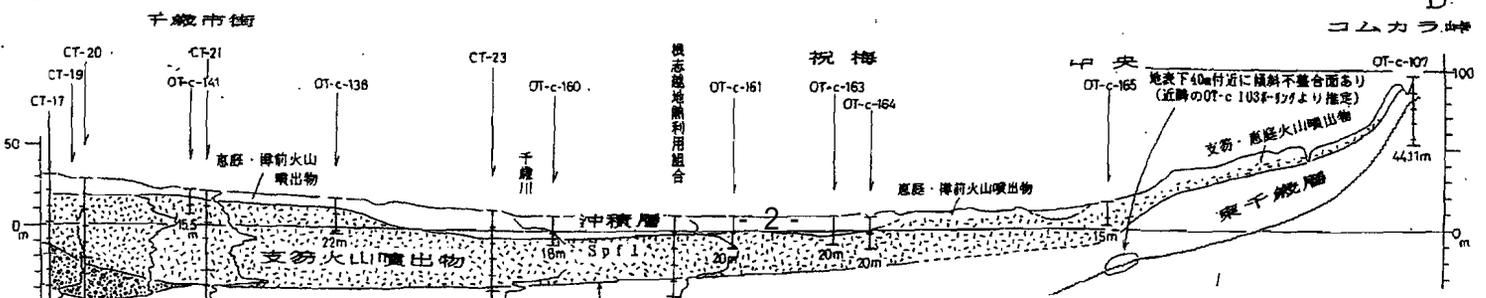


現在の北海道

「北海道の海岸線の変遷」
 出典：日本列島地質構造発達史(1965) 渡正雄・午来正男



D



D

3. 先史時代 千歳市の遺跡

2万年前

旧石器時代(祝梅下層遺跡・丸子山遺跡)

1万2千年前

<細石刃文化> (祝梅上層遺跡・メボシ川遺跡)

1万年前

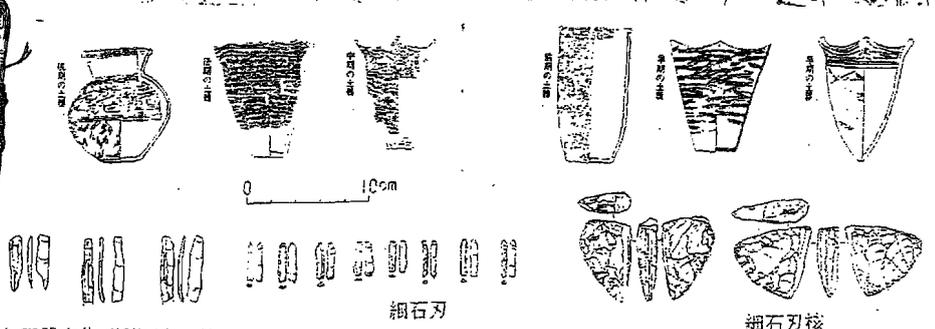
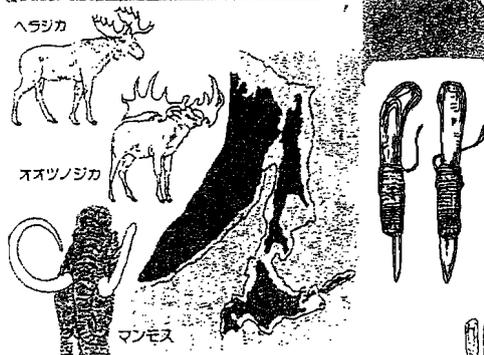
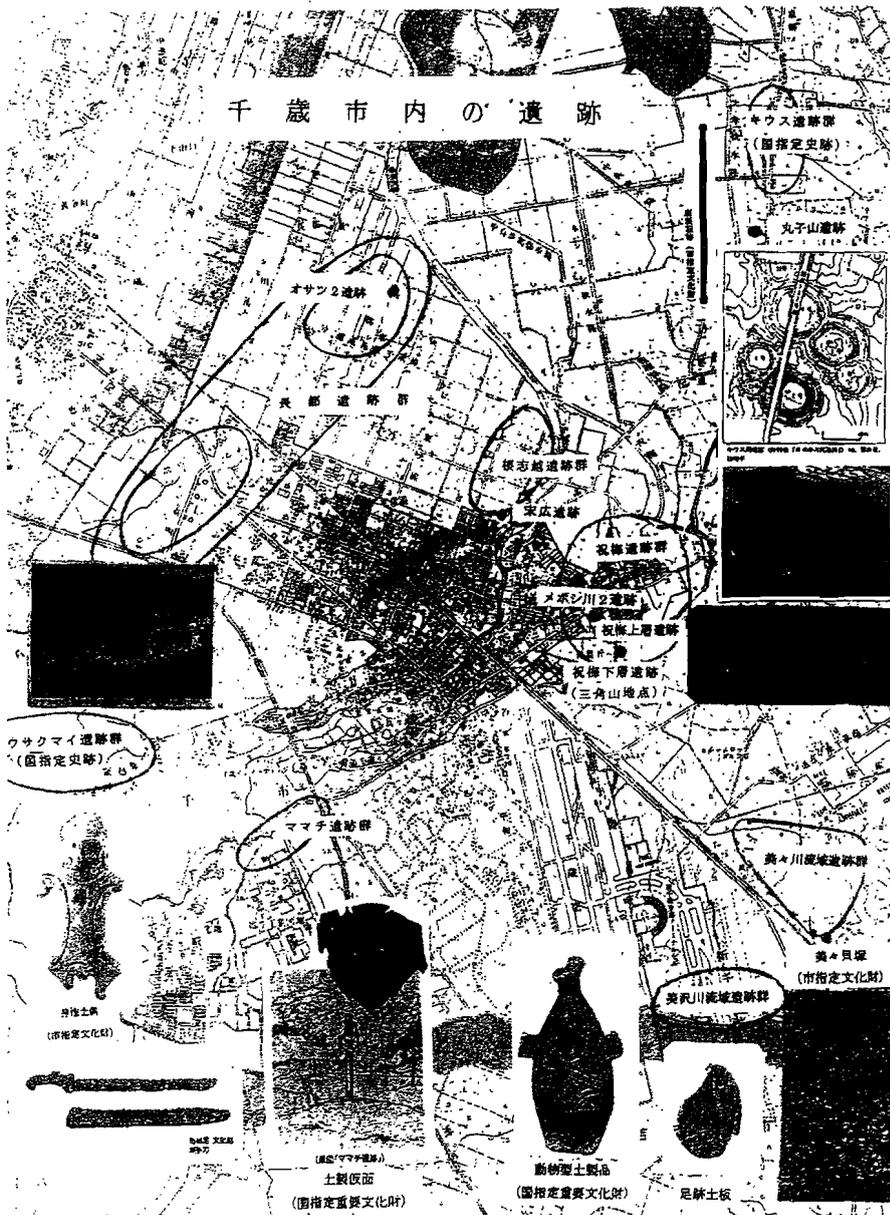
縄文時代(美々・美沢・キウス遺跡群)

2千3百年前

続縄文、擦文時代(ママチ・ウサクマイ・長都遺跡群)

ちとせの年表

西暦年代	文化区分		出来事
	本州	北海道	
1,900	近代	平成 明治	飛行機初めて着陸 しし舞い伝わる
	江戸	松前	「シコツ」から「ちとせ」 へ改名
1,600	徳豊	アイヌ	たるまえ山噴火
	室町		チャシがつくられる
1,300	鎌倉	縄文	和人とアイヌのあそび がおきる
	平安		鉄ナベが伝わる
800	奈良	続縄文	ウサクマイなどに古代 の村ができる
	700		ワラビ手刀が伝わる
A.D 300	古墳	縄文	土製仮面・男性土俵 たるまえ山の噴火
B.C 300	弥生	縄文	動物形土製品 周堤墓がつくられる 石棒
10,000	旧石器時代	縄文	美々貝塚がつくられる 足跡の付いた土板
			えにわ岳噴火 ちとせに人が住み始める しこつ火山大噴火
30,000			



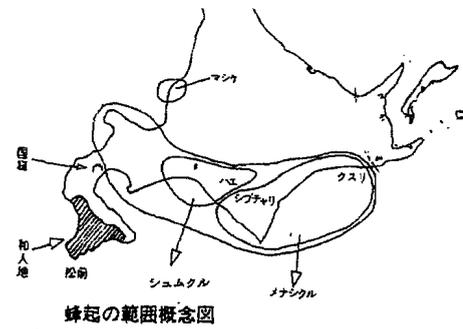
細石器文化(祝梅上層遺跡)

細石刃

細石刃核

4. アイヌ文化時代

志古津弁天堂建立



蜂起の範囲概念図

- 1200頃 (鎌倉時代)
- 1635 (寛永12年)
- 1658 (万治元年)
- 1669 (寛文9年)

- アイヌ文化始まる
- 松前蝦夷図に志こつの地名
- 志古津弁天堂建立
- シャクシャインの乱とシコツ



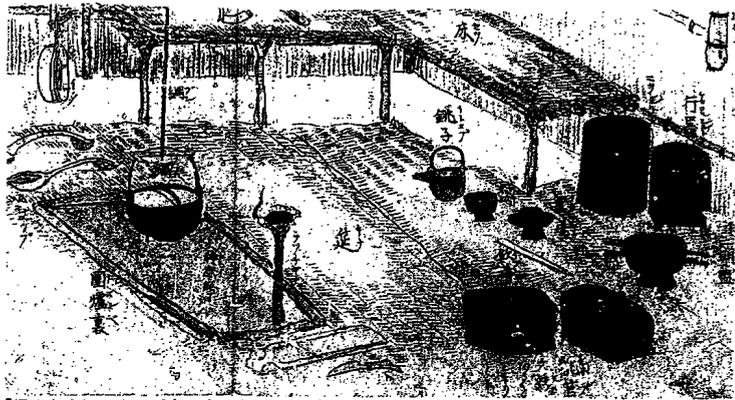
アイヌコタン



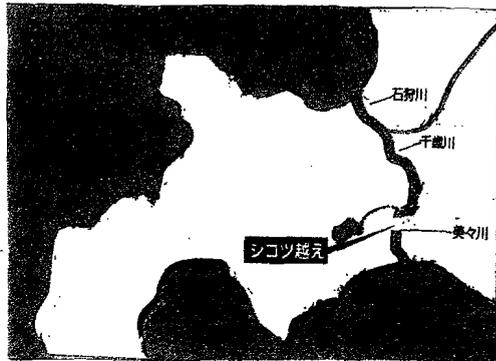
正装した男性と女性 (w)



蝦夷地での交易(日本山海名産図会)
アイヌ人は通上屋とよばれる施設へ魚・毛皮・昆布など多くの海産物をもちこみ、米・塩・布などと交易した。



「蝦夷島奇観」より「家の中」(部分、東京国立博物館蔵)。



シコツ越えルート



松浦武四郎「千歳川番屋の図」(1857年)

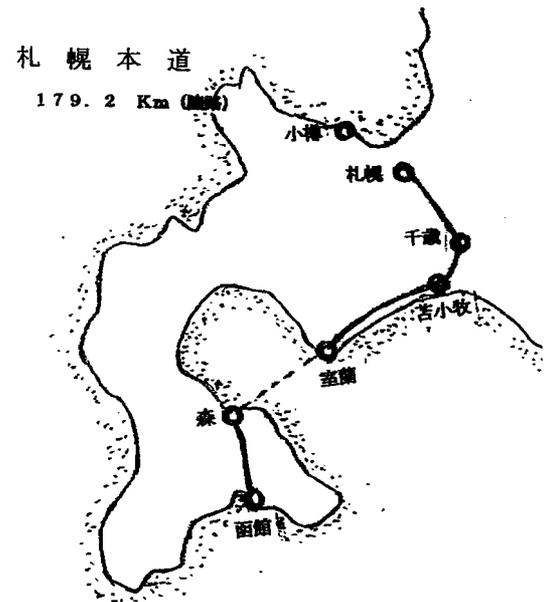
5. 幕末～明治前期

千歳命名・千歳越え

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1805 (文化2年) | シコツを千歳と命名 |
| 1807 (文化4年) | 異国船来襲の風説 |
| 1857 (安政4年) | 石狩～千歳間道路開削 |
| 1869 (明治2年) | 胆振国千歳郡編成 (6村) |
| 1870 (明治3年) | 高知藩80名余名入植失敗 |
| 1872 (明治5年) | 札幌本道着工 (6年完成) |
| 1877 (明治10年) | 美々に鹿肉かん詰工場設置 (14年廃止) |
| 1878 (明治11年) | 千歳川種川鮭鱒捕獲禁止 |
| 1880 (明治13年) | 千歳郡各村戸長拝命 (千歳開基元年) |
| 1881 (明治14年) | 明治天皇千歳行幸 |
| 1884 (明治17年) | 山口県より33戸入植失敗 |
| 1888 (明治21年) | 鮭鱒人工孵化場設置 |
| 1889 (明治22年) | 千歳郡を石狩管内に編入 |



美々鹿肉かん詰所 (明治14年) [苫小牧市史編さん室蔵]

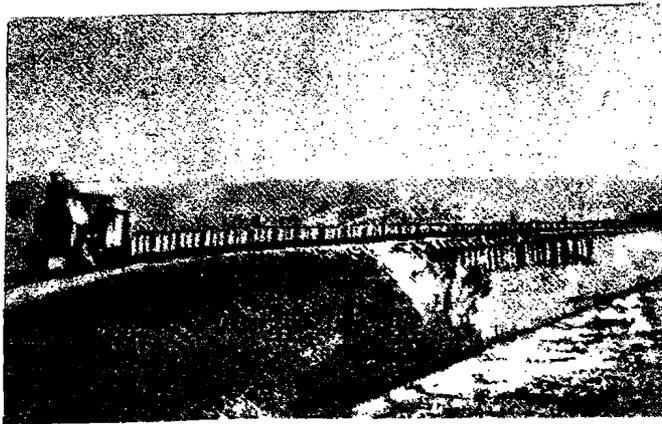


戦前の行在所跡

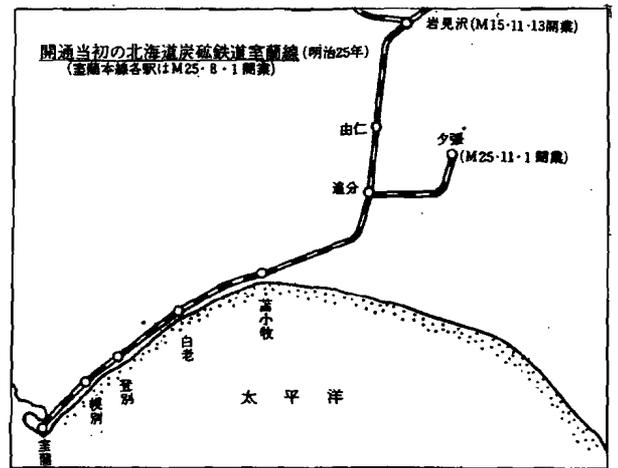


注加特別大砲製造 (The 200mm Gun howitzer of the Imperial Japanese Army)
 注加特別大砲製造 (The 200mm Gun howitzer of the Imperial Japanese Army)
 背面に砲撃奉行尉大正軍官名簿で千歳命名の歴史を記している。砲撃奉行尉は、
 砲撃奉行尉大正軍官名簿で千歳命名の歴史を記している。砲撃奉行尉は、

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1892 (明治25年) | 北海道炭鉱鉄道室蘭線開通 |
| 1896 (明治29年) | 漁村・島松村、分村、恵庭村となる |
| 1899 (明治32年) | 幌内、長沼村に帰属 |
| 1905 (明治38年) | 王子製紙誘致請願するも失敗 |
| 1908 (明治41年) | 王子軽便鉄道敷設 |
| 1909 (明治42年) | 樽前山大爆発 (溶岩ドームできる) |
| 1915 (大正4年) | 2級町村制施行 (千歳村4村合併) |
| 1919 (大正8年) | ウサクマイ分村騒ぎ |



北海道炭鉱鉄道室蘭線



樽前山の大噴煙(明治42年3月30日)



溶岩ドーム

炭礦鉄道敷かざりし
 以前は札幌直道で
 人の往き来の織る如し
 賑やかなりし町と聞く
 町はさびれて今ははや
 昔の面影あらざりき

千歳村歌
 高橋角弥作詞

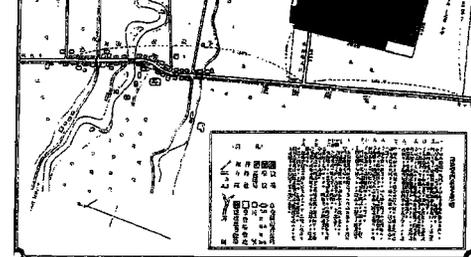


苫小牧一支笏湖間の山線機関車



千歳駅前通り(昭和16年)

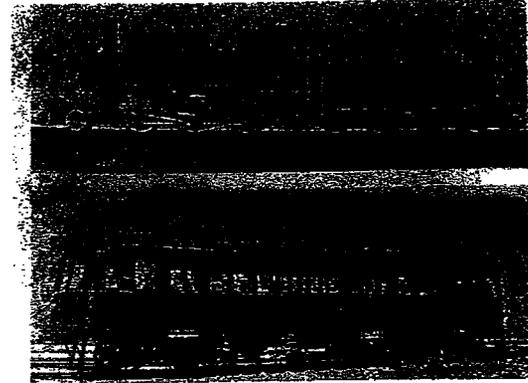
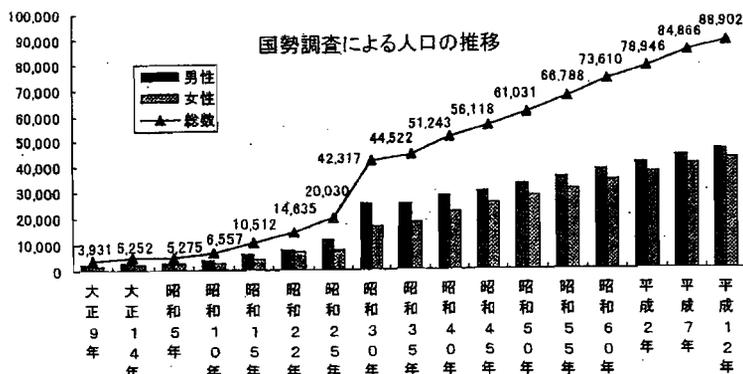
7. 昭和時代 基地の街



- | | |
|--------------|--------------------------|
| 1926 (大正15年) | 北海道鉄道千歳線開通 |
| | 小樽新聞社飛行機北海号千歳初着陸 |
| 1935 (昭和10年) | 陸軍飛行隊設置請願 |
| 1937 (昭和12年) | 海軍航空隊基地設置決定 (14年開庁1級町村、 |
| 1945 (昭和20年) | 連合軍米軍進駐 (17年町制施行) |
| 1951 (昭和26年) | オクラホマ州兵師団進駐、日航千歳空港所開設 |
| 1952 (昭和27年) | 保安隊千歳駐屯地開庁 (現北千歳) |
| 1953 (昭和28年) | 千歳—札幌間道路舗装竣工 (弾丸道路) |
| 1955 (昭和30年) | 陸上自衛隊東千歳駐屯地開庁 (29年米陸軍撤収) |
| 1957 (昭和32年) | 航空自衛隊千歳基地開庁 (31年米空軍撤収) |
| 1953 (昭和33年) | 市制施行 |

年別	世帯数	人口			備考
		総数	男	女	
明治13年	47	209			開庁(戸長役場設置)
大正4年	778	3,931	2,074	1,857	2級町村制の施行、4村の合併

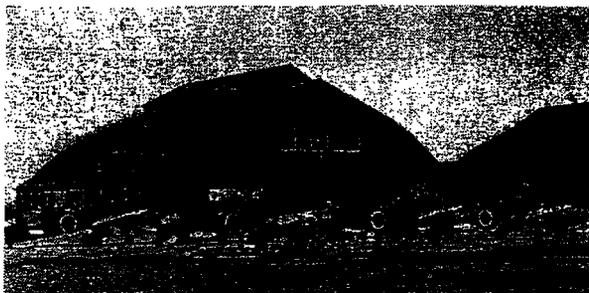
※ 人口数は、全道34市中11番目
人口増加率は、4.8% (第17回国勢調査/第16回国勢調査)



北海道鉄道のデング式蒸気機関車とガソリン客車



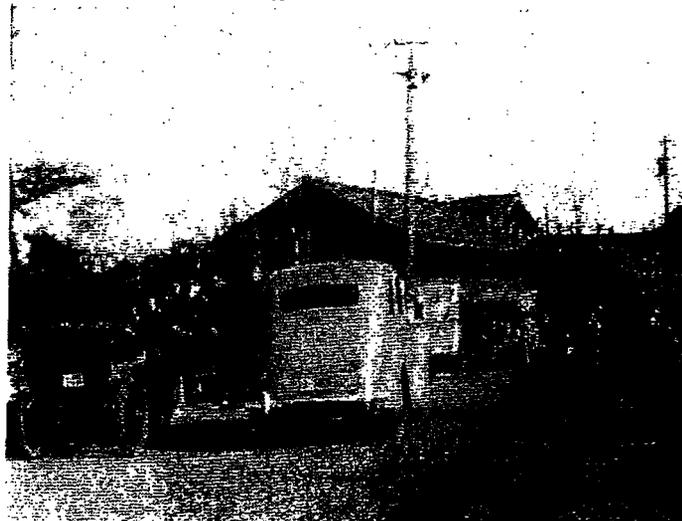
大正15年10月22日 午後1時20分
小樽新聞社機 北海第1号
千歳飛行場 着陸



千歳基地で翼を休める203空の零戦隊。(昭和19年3月末)



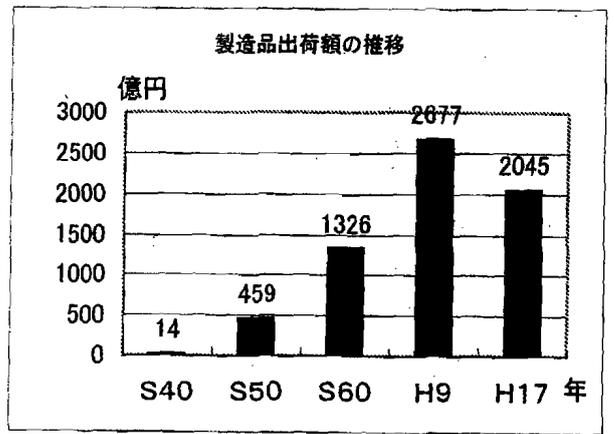
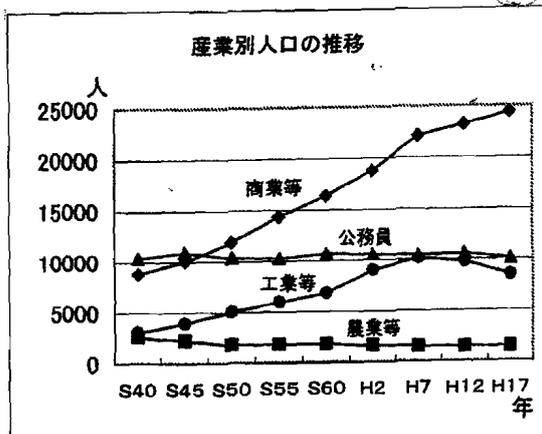
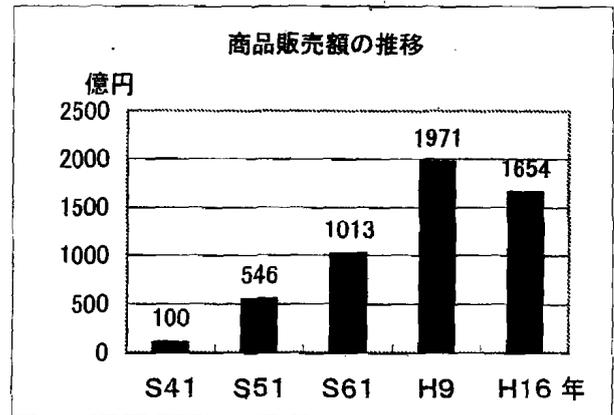
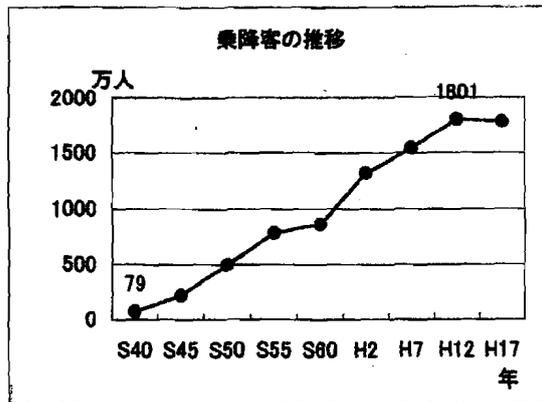
旧日本航空DC-4型旅客機「てんおう星」, 平屋の建物
旧日航ターミナル (昭和27年千歳飛行場)



リンクと進駐軍のいる千歳橋

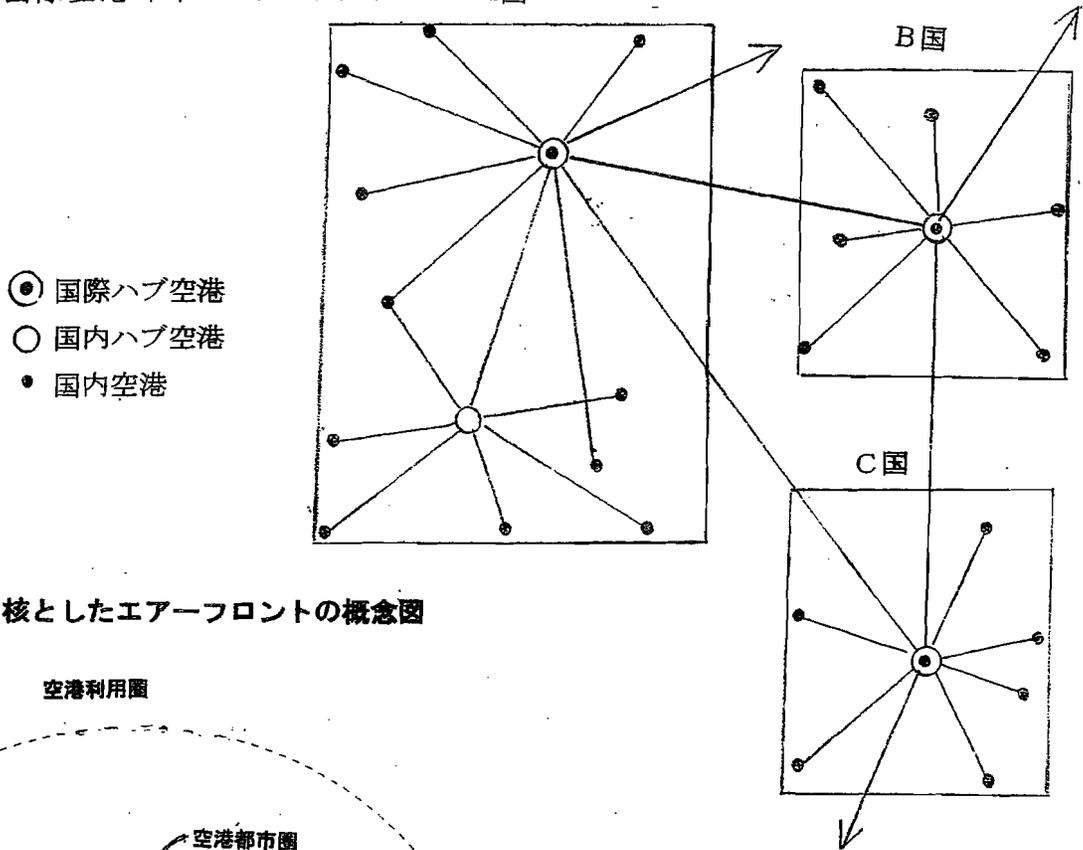
8. 平成時代 交通拠点都市・先端工業都市

- 1963 (昭和38年) 千歳空港ターミナル
- 1965 (昭和40年) 国鉄千歳線複線化
- 1966 (昭和41年) 市営工業団地操業開始
(39年第1、42年第2、46年第3、市営工業団地を造成分譲)
- 1967 (昭和42年) 千歳空港乗降客年間100万人を突破
- 1971 (昭和46年) 道央自動車道開通、国道・道道の整備、53ニチイ開業
- 1980 (昭和55年) 千歳線高架、空港駅開業、千歳線電化、ホテル日航開業
- 1981 (昭和56年) 石勝線開業、国際空港開港指定
- 1982 (昭和57年) 臨空工業団地操業開始、(54年造成分譲)
- 1987 (昭和62年) 千歳空港乗降客年間1000万人突破、新産業都市指定
- 1988 (昭和63年) 新千歳空港開港、(滑走路、ターミナル)
- 1989 (平成元年) 道央テクノポリス開発計画承認
(2年サイエンスパーク、4年第4工業団地、6年美々ワールド、
6年流通業務団地、8年千歳オフィス・アルカディア造成分譲)
- 1994 (平成6年) 新千歳空港24時間開港運用開始 (国内初)
- 1998 (平成10年) 千歳科学技術大学開校
- 2004 (平成16年) 千歳駅前ターミナルビル・ペウレ開業
- 2005 (平成17年) アウトレットモール・レラ開業

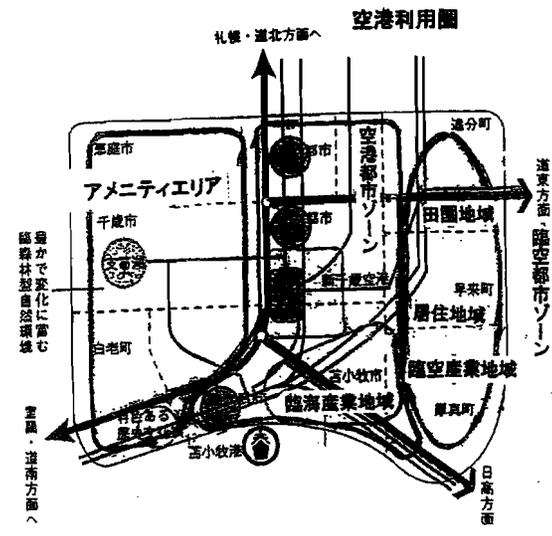
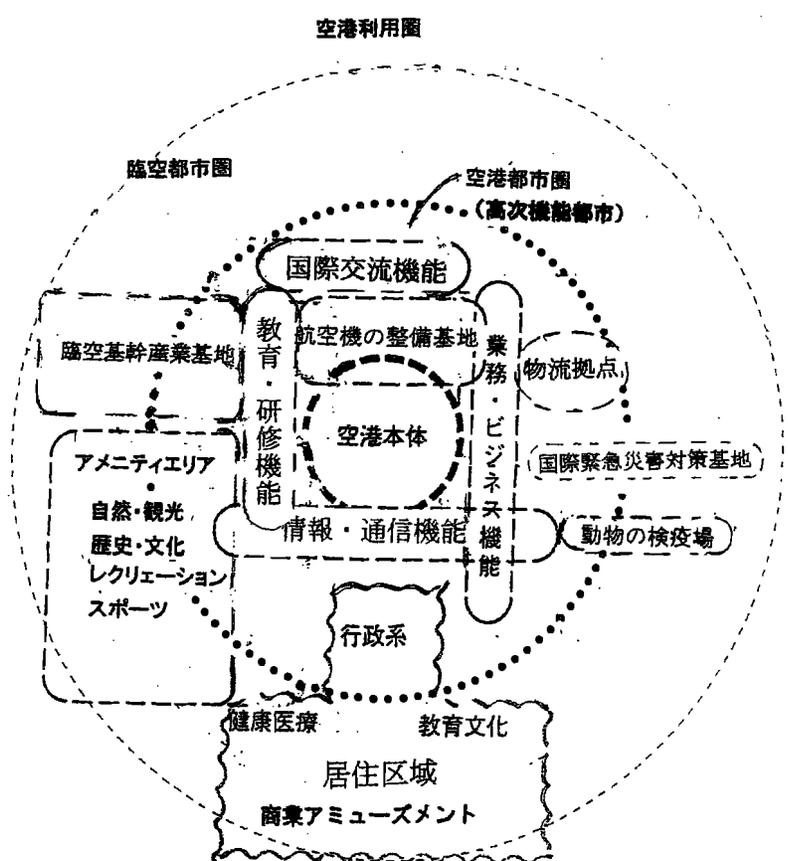


- (1) 国際ハブ空港の概念
- (2) わが国の現況
- (3) 新千歳空港の利点
- (4) 当面の施策
- (5) 国際空港都市地域の将来像

ハブ航空網展開イメージ



国際拠点空港を核としたエアーフロントの概念図



将来の国際空港都市地域像

21世紀の国際空港都市地域

日本の北の国際的なゲートウェイである新千歳空港の空港機能を十分活用し、北海道産業及び文化等の飛躍的な発展の牽引と、世界への架け橋としての役割を担うことを目指しています。

